

「 す い し ん い ん オ ン ラ イ ン セ ッ シ ョ ン 」 Q&A

第4回ウェビナー（1月26日）で寄せられた質問への報告者の回答&パネリストからの関連情報
 報告テーマ：無理なく、長く、着実に 地域に根差す、見守りのネットワーク
 報告：新潟県燕市分水地区地域包括支援センター 力石 雅博

質問内容	No	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
燕市について	1	推進員が市に1人、委託先包括4つを担当するのは大変だと感じました。具体的にどう動いているのでしょうか・・・	市役所窓口での相談・報告など、現在は個人を通して包括と繋がっているイメージ。全体で関わるのはケア会議や次年度計画策、事業実施時と言う状況。包括以外にも市の委託事業である介護予防・日常生活支援総合事業（1層の生活支援コーディネーターは市に出向中、隣席に居ます）、在宅医療介護連携推進事業の担当者とも定期的な情報交換を行っている。 感染予防の観点から極力密を避けようと言うのもあるが、出向後からこのような形に少しずつ変わって来ていたと思う。 ただ今年は、出歩くことがほとんどできなかったもので、電話が多かった。	
	2	市におひとりとのことですが、推進員として一人では動きづらいと思うことはないですか。各包括や地域での温度差はありますか。	一人ではあるが全包括が協力者であり理解者。動きづらいという事は正直ない、とは言いきれないが、逆にそういうものだと思ってしまうと、それほど苦にならない。推進員になる以前は、地域包括に3年間いたので、その辺りの事は重々事情がわかっていたし、他の包括とも連携が取れていた。また初年度の訓練やカフェなどの活動に、包括から参加していただいたので、良い関係が作れていたと思う。初年度に関しては、諸々の日程合わせ等苦労したことがあったので、その為次の年から出向になったのではと感じている。 (全包括内に推進員研修を受けた人がいる・た)	
声掛け訓練	3	県や近隣市町との共同での声掛け訓練について教えてください。	県がJRと協働して広域での搜索訓練を開催するにあたり、JR路線のある地区で訓練も実施している地区として該当 燕市の人が、路線の終点である弥彦駅で行方不明となり、始発の三条駅で見つかったという設定 県からくる各種調査票に「広域連携が必要」「広域での訓練を実施すべき」と書き続け、県からの依頼には協力する、断らないといった、地道な努力を続けた	
	4	①声かけ訓練にタクシードライバーさんの参加もありましたが、そういった方をどうお誘いしたのか。（本社に参加を呼び掛けたのか？）	まち協のメンバーとして参加。 まち協の方で人選し、個人が会社の了解を貰って参加している	
	5	②タクシードライバー以外に、地域のどんな方に参加いただいたのか。（またその際の参加依頼方法）	NPO法人のメンバー、商工会の婦人部の方、介護施設、民生委員、自治会長、サロンの世話人、認知症サポーターなど。搜索区域にある商店主や診療所の看護師や薬剤師には、訓練実施中に参加していただくこともある。7~8割は60歳以上の現役卒業世代。親子での参加という事もある。 主催者（地域の人）が、町内にいるこれと言った人を一本釣りしたこともあるが、殆どは回覧板を回す等での募集	釧路の場合、一番最初に声をかけたのは、たまたま訓練を実施したいと話をしに行った教育委員会に、とある学校の校長先生がいて、そこで雑談のように盛り上がったことがスタートだった。「いいよ」と言ったのは、教頭先生だったと、学校の先生方から聞いた。その話を聞いて、毎年校長先生と教頭先生の会議に参加して、訓練も含めた認知症サポーター養成講座へのお願いをさせてもらっている。会議への参加調整は教育委員会教育支援課にお願いしている。（釧路市）
6	体験会の参加者の『住民』は、どのような方がいらしていますか？			

質問内容	No	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
声掛け訓練	7	声掛け体験会に参加したことによって、実際に地域での変化はみられていますか。例えば、自宅に戻れなくなったケースにおいて、発見される時間が短くなった、見つかることが増えた、声をかける人が増えた、警察や消防などの機関も積極的に関りが出来た、など。	あくまでも感覚ですが、姿が見えなくなったら警察に相談する人が増えてきた、通報する時間が早くなってきた、警察や消防との距離が縮まった と思う。 わかりやすい所と言うと、訓練と認サポがセットになっているので、サポーターの数が増えた。それから、警察に届けてから見つかるまでの時間が、初年度6.7時間、4年後が4.8時間といったデータはあるものの、その年の状況によって大きく変わるので、一概に早くなったとは言えない。実際、去年は平均11時間だった。 事業所や消防がとても身近になった。警察や消防はケア会議などで一緒になるし、訓練にもほぼ参加いただいている	
	8	②徘徊対応模擬訓練について 住民主体に開催について、具体的に知りたい。(定着や浸透など)	企画や運営（予算取り・学校との打ち合わせ・アポ取り・役割分担・広報・参加者名簿作り・マスコミへの連絡など）を自主的に行い、子供たちへのアドバイスなどは包括がサポートしたまち協の年間計画に声掛け訓練が入れられ、予算もつくようになっている	
	9	地域での見守り訓練をしたい時に誰に了解をとる必要があるのかお聞きしたいです。	主催する団体。訓練方法・道路の使い方によっては警察の占有許可が必要になる。あとはスタッフとして協力いただく機関への依頼文を作成しています。	
イベント全般	10	④推進員主体ではなく、地域の方主体で会を開催したことで“逆に大変だったこと”（推進員主体だったらこういう面は楽だったけど、地域の方主体にしたらこの面は大変だった等）はあるか。	一回だけ困ったのが、日程が重なってしまったこと。最初の挨拶だけして少しだけ見てから次の会場に移動し、最後の挨拶をしたというようなことになった	
	11	土日だとどっちの開催がより人が集まりますか？	天候や地区によっても異なるが、しいて言えば土曜日*	
	12	実施するにあたっての予算はどこから出ているのですか？	まち協や町内会の予算が主、道路使用許可やボラ保険は認知症総合事業委託費から拠出	
	13	訓練に参加される地域の方は、毎年違う人なのか。参加者数や参加者層は初年度と比べて変化はあったか。	半分は固定メンバー、自治会役員。 初年度が一番多いのはほぼどこの地区も同じ、その後は地区によって異なるので一概には言えない。参加者層は継続するほど多世代化が進んでいる。	
	14	声をかけた事業所のうち、どの程度が参加してくれているか。	専門職や包括単位で開かれているケア会議に参加している事業所にスタッフとして協力をお願いすると、ほぼ100%協力いただいている	
	15	推進員さんが一番初めにどのような形で、この事業をスタートされたかを具体的に聞きたいです。	交通事故死された若年性認知症の人の振り返りで実施の必要性を再確認、自包括の圏域での開催を内部で確認	
	16	認知症の方に対して実際にどう関われば良いかを訓練等を通して体験してもらうことの有効性を実感できました。	はい。特別な何かが必要と思う人がほとんどであったが、普通の挨拶と聴く・伝えるの基本でよい	
	17	初めの講座の時にはどんな方が集まってくれましたか	まち協の役員中心でした	
18	③認知症カフェと⑥「認知症の人と介護者のつどい」の違いは何か？	推進員主体で行っているのもであれば、カフェは広く啓発を目的につどいは当事者中心の個別支援的な形になっています		

質問内容	No	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
イベント全般	19	一般住民の方を参加に巻き込む際に、いつもの顔なじみメンバーばかりが集まってしまう。初参加の方を増やす取り組みがあれば、教えていただきたいです。	何時も来ている方に、「二人連れてきて」と頼んだことがある。	町内会単位で実施すると、他の町内会にいつも来る人が来ないので、その町内会か近隣の人しか来なくなる。そうしていると、今までと違う人が来るようになったことがある。それから、「怖くて行けない」と言っている人を、いつも来ている人に連れてきてもらった。これの繰り返しで、徐々に新しい人が増えてきている。（千歳市） 相手が求めているところに飛び込んでいく。訓練など自分たちが行っている事業に巻き込もうとすると、その人にとって目的がないと来ても意味がない。参加したくなるような仕掛けを作るというのも一つの手だと思う。（御坊市） いつも同じ人が来てくれるというのもすごい事だと思う。いつも来てくれるメンバーを、実行委員会のように考えて、その人達を中心にどこか違う地域に出て行ったらどうかと進める。そこでやっている取り組みが基本になって、他の地域に紹介するような提案をすることで、色々な地区に繋がって行けるのではないかと。（釧路市） 自分は市役所で、認知症の業務担当に配属される前に、現場の職員としてごみ収集を担当していた。ごみ収集のため車に乗って、市内をくまなく回る。そうすると、認知症で困っている人に出会い、声をかける可能性がある。そうすると、業務と関係なくても少し関係してくる人になる。郵便やタクシーの人もそうなるので、そういった人に声をかけてみる。ただ、声をかけたときに興味を持ってくれない人は、深追いをしないことは強調して言いたい。（釧路市） コロナの状況の中で地域を広げるときに、「やりますか、どうしますか」と聞くと、「やらない」と答える地域が多いと思う。そうではなくて、「コロナの状況ですけど、こういった形でできますか」など、聞き方を工夫してみると良いのではないかと。願いますこちら側は、どうしても必要な取り組みであること、それを地域の皆さんと一緒に展開することが認知症の人が住みやすい地域にするためには必須であること、をしっかりと伝えることが重要。（釧路市）
	20	③普段「知らない人に声をかけたらダメ」と教育されている子どもに対して「困っている人が居たら声をかけましょう」と伝えるにあたって、学校側や保護者から何か言われることはなかったか。	今のところない でもあってもおかしくないと思っているが、この事をきっかけに家庭内で話題になれば良いと思っている	千歳市では、小学校での認サポの時に「できたら声をかけてくれると助かります。でも、無理をせずに先生やお父さんお母さんに急いで伝えてくれる事も大切です。皆さんは『知らない人と話し手ではダメ』と言われていたから、お父さんお母さんと出かけている時に困っている人を見かけたら、声をかけてくれたらうれしいです」と伝えています。学校から何か言われた事は一度もありません。（千歳市）
	21	小学生認サポ講座時間と内容（講義の後にグループワークですか？またグループワークにどのくらい時間をかけてるか？）	認サポは実質40分、テキストは配布したが認知症指導者である特養施設長がわかり易く、子供たちからも意見を聞きながら進めた。 1 G10人2人一組で、3分間の声掛け体験で計15分、GW15分、絵本の読み聞かせ10分、挨拶5分（途中休憩20分）9：30～11：20	千歳市では学校によってまちまちですが、最短45分（1コマ）～最長90分（2コマ）です。声かけ訓練やグループワークはやりませんが、家族とできる脳トレや認知症の人との接し方、認知症に関するクイズを中心に構成しています。ちなみに、多くの学校で振り返り授業の時にグループワークをしていると聞いたことがあります。（千歳市）
認サポ	22	動画の最後の方に力石氏も述べていましたが、子どもを対象にする場合、声掛けの大切さを学んでもらうことはとても良いことであると感じました。その際に、小学生に対し、認知症と思われる方の判断をどのように伝えたのでしょうか？ 例えば「道に迷っている人」などと具体的にお伝えしているのでしょうか？ 小学生から見ると、お年寄りの年齢層は低く、いわゆる変な人に声を掛けてしまわないか心配です。また、親御さんからの意見なども分かれば教えていただきたいです。	ステレオタイプで申し訳ないが、同じ場所を行ったり来たり、冬なのに薄着、夏なのに厚着、道端に座り込んでいるなど 心配＝もっともです でも児童からは、そのような感想はありませんでした 訓練とは違う認サポ時に小学5年生から直接聞いたこととしては、「自分の祖父母が認知症で、親から接し方を教えてもらった」と言うことを聞いたことがある また警察生活安全課長がふうせんかづら見守り隊をつくり、小学生の見守り隊を作ったという事例が新潟県にある（その課長が燕市へH27頃に異動されてきていた）	
	23	キッズサポーターへの配慮や声掛けの注意点は動画の中のものだけですか	動画は当日だけです。学校で事前の働き化があったかどうかは確認していません	

質問内容	No	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
認サポ	24	小学校で開催するにあたり、一番最初に声をかける人は？（校長？教育委員会？PTA？）	今回は教頭先生でした⇒まち協役員でもあるので	
連携・ネットワーク（おかえりつばメール	25	地域とのつながりをどのように作られましたか？（どのように働きかけられたのか）	既存のつながりの重視、他の人のネットワークを紹介してもらって、会議やイベントなどには積極的に参加する、住民視点で考える	
	26	「地域の人に巻き込まれる」ために、具体的にはどのようなことをしていますか？ ＝地域の方々が主体的に活動してもらえるようになるにはどうしたらよいか？ ＝隣接市村との共同訓練についても県に巻き込んでもらってとお話されていましたが、具体的に県とどのようなやり取りを行って実現したのか教えてください。	ネットワークからの情報発信と収集。 自分達の地区にはこのような取り組みが必要だ！とってくれることが重要だと思う。 その為には身近なことだと共感が得られやすいので、そういった情報を集めるのが良いと思う。 また某地区での初回の訓練後に「この地区に認知症の方がいないとしても、この地区を帰れなくなった認知症の方が〇名通過したことがあるので力を貸してほしい」と講評した直後に、道に迷っていた認知症の方を自宅まで届けたと言うエピソードもある。 日頃から県へのアピールとセミナーや訓練などの情報提供。 県の事業に協力を惜しまないこと	今回の動画の説明を聞いて、私達（千歳市）や谷口さん（御坊市）、速水さん（釧路市）の今までの話、全てが入っている。谷口さんが『巻き込まれ』という話していたし、『人のふんどしで相撲を取る』というのも、千歳市の『餅は餅屋』と同じかなと思う。力石さんが、それはかえって誉め言葉だという話をしているのは、速水さんが以前言っていた視点の違いのところだと思う。私たちや皆さんが発表した内容は違うけれど、根本として推進員が動いているところはみんな一緒なのかなと、今回話を聞いて思った。（作田）
	27	今年度実施した小学6年生に対する訓練、体験会はサポーター養成講座の後に行われたものですか？それとも単独で実施したものですか？ また、今年はコロナにより内容を変えているとのことでしたが、小学生に対しては例年どのような取り組みをしていますか？	サポーター養成講座と声掛け体験をセットにした、認知症について学ぼうと言う企画。 通常の年であれば福祉会館と言うミニ公民館的なところで参加者とスタッフの50人前後が認サポを受け、そのあと路上で声掛け、終えたら会場に戻り共有と言う流れ。 多様な職業・年代の普段顔を合わせることのない人たちが狭い場所に集まるという事で、今年度は初参加となる小学生をメインとした。 小学校へは、まち協から参加を呼び掛けていた	
	28	地域支援体制の整備として、①支援ネットワークの構築とありますが、具体的にどのような団体とネットワークを組んでいるか。	見守りに関すると市が協定を結んでいる郵便局やガス会社、新聞販売店や警察・消防などですが、実際はスーパー、コンビニ、理髪店、お隣さんに町内会長など、個々の支援に必要なところ全てと捉えています	
	29	まちづくり協議会の発足経緯は？	平成17年に近隣の2町と合併した年に、地域における広範な課題にも対応できるよう、一定の規模で組織されています。地域で活動する各種団体・組織が単独で対応することが難しいと考えられる広範な課題や問題を掘り起こし、地域の住民の皆さん自らが協議し、自らの力で解決していくことで自立した地域づくりを行う“地域コミュニティ組織”です。	
	30	まちづくり協議会と包括の関係づくりはどのようにできていったのでしょうか？きっかけなど。	包括配属時に管理者さんと挨拶に行った	
	31	まちづくり協議会との関係作りで、最初の頃はもちつきの受付や忘年会への参加していたとありましたが、業務としての参加ですか？	どちらも上長と相談し、業務として参加。 また忘年会というか意見交換会の個人負担分も、公費から出してもらった。	
	32	①まちづくり協議会について メンバー（年齢・職業）について知りたい。 住民主体の開催をいかに市全体に定着させているのか。具体的に知りたい。	燕市役所のHPにまちづくりと言う表示があるので、そこから入っていただければ詳しい状況がありますので、そちらを参照いただければと思います	
33	①まちづくり協議会について 年齢層と職業など、どのような方々か知りたい。	まち協は全部で13あります 現役世代もおりますが、ベテラン世代中心なので様々な職歴の方がおります。消防副署長や元校長などなど		
34	②事前登録後のモニタリングについて どのタイミングで行っているのか どのような事を具体的に確認しているのか。 事前登録後のモニタリングの書式や次に繋がった事例など紹介して欲しい。	当初の予定は5～6月、緊急事態宣言と重なったので今年は半年遅れとなった。 登録継続や個別支援の必要性、その判断材料となる心身状況や居所、家族状況の変化の有無などと、配布したステッカーの利用状況を調査した 昨年度は登録された方に支援者がついていないことが分かり、包括へ繋ぎなおしたケースがあった。		

質問内容	No	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
連携・ネットワーク（おかえりつばめメール	35	③事前登録後のモニタリングについて どのタイミングでモニタリングを行うのか。 モニタリングの書面が知りたい。 モニタリング後、次に繋がった事例等知りたい。	前年度に実験的に行ったら、既に亡くなりました、歩けなくなりました、施設に入りました、施設職員が登録していることを知らなかった・・・もう必要ないですとか、ステッカーを使っていない、今もお帰れなくなっている等が分かったので、必要性を感じました。	
	36	おかえりつばめメールについても、どのようなものが説明がききたいです。	警察から発信されるSOSネットの情報を、市が登録者・登録団体へメールで知らせるものです（登録時に簡単だが個人情報の保護についての説明と同意を貰っている）	
	37	おかえりつばめメールの配信と事前登録制度の開始について、モニタリングも開始とありますが、モニタリングの具体的な内容を教えてください。事前登録されている方全員モニタリングなのか、モニタリングの要件等はあるのか？	今年度登録された方以外を対象とした 捜索する為や警察が探しやすくするために事前登録しているわけではない。もちろんそういう意味合いもあるが、メインは安心して暮らしてもらうという目的。その方がその後どう暮らしているかを調べるためのモニタリング。一昨年ケアマネに協力してもらい、調べてみると、施設に入所（入居）している方や亡くなっている方がかなりいた。それから、登録した時にステッカーを渡しているが、それを全然使っていないという事もあったので、モニタリングを一度しないと本来の目的が達成されないと思い、市へ提案して今年度の事業として実施してもらった。 *モニタリング用紙を画面上で共有した。用紙に関しての問い合わせは、登壇者へ問い合わせをしてください。 ※別シートにモニタリング用紙を掲載しました	
	38	質問ですが、燕市の、見守りつばめあんしんカードの材質（紙なのか別の素材なのか等）と大きさを教えて頂けないでしょうか？	ポイントカード大で、財布などのカード入れ部分に入る大きさにしてある。 下記は見積もり書から引用した仕様です 大きさ：91mm×110mm程度 紙質：コート紙 四六版〈90〉 色数：両面4色カラー 加工：両面PP加工 スジ1本 ラミネート加工と、二つ折りしやすいように中止にスジを入れた	
	39	事前登録事業での登録者へのモニタリングとありましたが、具体的にどのようなモニタリングをされましたか？	登録継続の必要性、（ADLや居所、家族状況の変化の有無）と配布したステッカーの利用状態を調査しました	
	40	SOSネットワークのメールについて、当市でも制度はありますが、個人情報の問題等によりメールへの配信は拒否されるご家族の方もいらっしゃいます。燕市ではどのような状況かお教えてください。また、メール登録者の方が発見した事例はありますか？	メールを発信するのは事前登録制度を利用されている方に限定していましたが、登録なしでも相談者の同意が得られれば発信可能との警察の話があったので、現在調整中です。 ちなみに事前登録時に発信しても良い情報を確認しています。	

<p>連携・ネットワーク（おかえりつばメール</p>	<p>41</p>	<p>SOSネットワークシステムがどのようなになっているか教えて欲しいです。（フロー図などあれば見せて欲しい。）</p>	<p>直ぐに出せないですが探します！ 高齢者だけでなく、児童や障害者のある方々の情報も流れるようになっている。市の中で、課をまたいで活動というものはないが、SOSネットワークを通じて、そこから支援者に連絡がいくといったような、緩やかな連携がある。 長寿福祉課に届いた情報を、児童や障がいを担当する部署を通して、その方を支援している人へ情報提供している</p>	<p>今年度釧路市では、コロナ対策をしながら、全ての地域でSOSネットワークの訓練を行った。今まで何年間か続けてきて、振り返りの話という点では、7包括支援センターがバラバラで訓練を行うが、実施後のアンケートでは共通のものを使っている。結果として、回答を精査していき、釧路市全体の課題、釧路市それぞれの地域のばらつきを測るという意味でも、フィードバックに反映させるというやり方を行っている。 釧路市は地位を小さく、市内全域というよりは、各支援包括の圏域、町内会単位で行う。町内会の規模にばらつきはあるが、参加者数をノルマにせず、少ない人数でもいいから参加してもらい、開催することが大事。人数を集めることが目的ではないので、制約を設けないようにしている。行政が人数を言ってしまうと、「うちは無理だ」となり、選択肢が狭まることの方が恐ろしいと思う。何年かけても継続していく事業なので、まずは包括支援センターの地区が、それぞれどういう形でも良いので、一回り訓練を行うという事を目的にしている。小さい地区行うメリットとして、行方不明になる人が、よその地区という事ではなくて、自分の近所の高齢者が行方不明になったという想定で、声をかけましょう、探しに行きましょうとなる。普段散歩している姿を見慣れている方々が行方不明になったらどうするか、という視点が自然と地域住民の方に伝わっていると思う。訓練の目的と結果を、地域の方々に必ず伝えている。 同じような訓練を毎年繰り返すというのも、大変なことがある。振り返ってみて、良い点と悪い点を洗い出して、悪い点を改善していくという事は自然とできているはず。そうでないと長続きしないのではないかと考えている。同じことを繰り返しているようで、続けられ続けているという事は、そういう事だと思っているので、それは推進員活動の賜物だと思っている。（釧路市）</p>
<p>コロナ対策</p>	<p>42</p>	<p>感染予防について、形式を変えての搜索訓練実施は検討されているか。</p>	<p>していない 集まること自体をリスクとして捉えている 声掛け訓練が終わってからの共有として、振り返りにも力を入れている。そうなるとグループワークとなるが、会場の大きい所がそうそう取れない。そこに40~50名入り、当日参加の人や普段合わない人が集まる。そういったやり方は危険だろうという事で、見送ったところがほとんどだった。</p>	<p>千歳は今年クラスターで訓練が全くできなかった。そういった時に取り組んだことを紹介する。「千歳地域SOSネットワーク対応ハンドブック」。クラスターと訓練実施の時期が重なってしまった。その為、訓練は最初からあきらめていた。千歳は声掛け訓練というよりも、SOSネットワークの実効性を高めるという意味で訓練を始めた経緯があるので、どうしたら発見、または通報をしてその人を救うことができるのかということを知ってもらう機会を作ろうということで、簡単な冊子を作った。声のかけ方や声かけなくても出来る事、観察の仕方を載せている。コロナ感染症で訓練など開催できなくても、こういった方法があるということで紹介した。 SOSネットワークの事務局が配布した。協力員として、タクシーやスーパー、配達業の方々と契約をしている。その協力員と民生委員を中心に郵送している。（千歳市） 当日は紹介できませんでしたが、現在動画を作成中です（撮影は10月）。撮影・編集は推進員、演者は家族会の役員さんがしてくれていますが、シナリオはなしで「○○な感じで～」と伝えただけで演技してもらいました。完成後の配信等は、SOSネットワーク事務局の社会福祉協議会が行います。新年度も訓練ができない可能性を踏まえての動きです。（千歳市）</p>
	<p>43</p>	<p>コロナ感染拡大の最中、次年度の取り組み、計画はどのようにされていますか？</p>	<p>現状では未定です、地域あつてのものなので…</p>	
	<p>44</p>	<p>コロナ禍での行事の開催は、反対意見の方たちもいたと思うのですが、そのような方達に、どのように説明して開催されたのですか</p>	<p>相手に合わせごり押しはしない</p>	

質問内容	No	質問	回答（報告者）	情報提供（パネリスト）
コロナ対策	45	コロナ禍で、声かけ訓練を行うにあたり、感染対策は、どのように取り組んだのですか？	今年度実施の小学校認知症サポーター養成講座では、検温や手洗い等の通常に加え、小学校に入る人数は最小限にした。学校との話し合いがずっと続いていたため、不特定多数を集めての実施はあきらめて、小学校で実施することにした。	密にならない為、人数を集めないように気を付けた。会場は例年通りになってしまうので、通常の三分の一人の人数を目安にし、ソーシャルディスタンスを取れるように考えた。声掛け訓練は、室外で距離を保ちながら行った。室内では、警察の生活安全課に協力してもいい、通報訓練を行うので、ステージの端と端で受話器を持って行った。あまり寒くない時期に行えば、窓を開放しても行えるので換気を行う。参加者の方の検温と手指の消毒をするという、基本的な感染対策を徹底した。（釧路市）
その他	46	大きい口バ隊長をどうやってつくるのか	* 燕市力石さんへお問い合わせください	
	47	「住民主体・地域に巻き込まれる」という表現がありました。どのように地域住民の主体性を引き出したのでしょうか。高齢化した自治会の皆さまが自治会運営だけでもいっぱいになっており、こうした活動にまで協力出来ない。等の意見を伺うこともあるため、協力いただくためにはどのように仕掛けていくと良いのかと思いました。	自分達の地区にはこのような取り組みが必要だ！とってくれることが重要だと思います。その為には身近なことだと共感が得られやすいので、そういった情報を集めるのが良いかと思えます。 一から何かを作り出すのはエネルギーを使いますので、今ある何かちょっと手を入れることを考えると良いと思えます	説明を聞いていて、訓練の目的がしっかりしていると感じた。若年性の方の事故がきっかけだったことや大牟田市に視察に行って、そのまま真似をするのではなく、自分の地域で出来るところをマネしながら、オリジナルも出して上手く継続できていると感じた。 今日のパネリスト4地域で訓練を実施していないのは、御坊市だけです。訓練をなぜしていないのかを紹介したい。10年ほど前に一度「安心声掛け訓練」という名前で、訓練を行った。搜索の訓練というよりは、声掛けの訓練を目的に実施したのだが、その時に地域の認知症当事者の方が、訓練の様子を見て『私を捕まえに来た』とおびえてしまい、その後しばらく自宅に引きこもってしまったという事があった。本人が安心できない訓練でなんだろう、と色々考えるようになり、その後訓練を実施していない。いつかまたやりたいと思っているが、本人の声を聞いた方が良いという事で、知人の当事者に「道に迷った時に声をかけてもらおうと安心しますか」と聞いてみた。「そんなもんビックリするわ」「急に知らない人に声をかけられたら怖い」「道に迷っているときは、頭がおかしくなっていることがわかる」「それを深呼吸して戻そうとしているときに、全く知らない人から声をかけられると、余計にビックリして混乱するからやめてほしい」と言われた。それを聞いて、声掛け訓練も色々考えないといけないと思った。本人の状態像をステレオタイプにして、上手く本人のことを捉えてなかった。声のかけ方として、「どうしたんですか」と行方不明前提で声をかけるのはおかしいのではないかと。訓練ではないが、寸劇に対して認知症の当事者から手紙をもらった。その中に、『認知症の人への対応と言いながら、あれはまるで認知症の本人を馬鹿にしているのしか思えません』『認知症の人をステレオタイプで判断して、偏見の塊です』という言葉が書いてあり、『どうかこれからは、本人が笑いものになるような絶望を感じるような寸劇というような本人の寸劇は止めてほしい』『本人の希望になるようなものにしてほしい』というお手紙だった。訓練の時に、色々な人を想定しているとは思いますが、それも一度本人に聞いてみると良いと思う。そういったことも、本人の声を聞くチャンスになると思っている。本人がどうあれば、本人が安心して地域で出かけられるのかというところに視点を置いて、訓練を出来たらと考えている。（御坊市）
	48	私は、推進員が一人であることと、職場の方々は自分よりも若い方々であるので誰もが話しやすい関係作りに心掛けていますが、周りの人を巻き込んでいく中で心掛けていることはありますか？	正直苦手なところ。人見知りなもので・・・ 何ならやってみませんか？と言うような軽い感じの声掛けや、誰か一人、理解してくれる人を見つけると良いかと思えます。	
49	H20～FAX・記録等にて行方不明者の記録が残っていたとのことであったが、現在もそのシステムで実施しているのでしょうか。	警察の取り組みですので詳しくは判りません。 細部は変わっているかもしれませんが、ほぼ継続しているのではないかと思います		

その他	50	大牟田市の徘徊模擬訓練に参加された際、訓練中に住民に声をかけ巻き込みながらの実施を行っていたとのことであったが、燕市でもそのような形の訓練を実施していますか。また、大牟田市では、住民への周知等体制構築が行えているためいきなりの住民への声かけも可能であったでしょうか。	全く同じには出来ませんでしたので、探しだすよりも気づきからの声掛けを重視しました。いきなり飛び込みで個人宅へは行きませんでした。診療所や商店には参加いただいたことはあります。私が参加した地区では、知らないと言う方はおられなかった。住宅地図に、何年度に参加して貰ったかが分かるように色分けしてあるシールを貼り、まだ参加していない家を中心に声を掛けていった。	
	51	リーフレット(見開きの「安心カード」)は誰が作られましたか？住民？・聞き取れてなかったらごめんなさい。	大牟田市の「ありがとうカード」を参考に推進員が作成した	
	52	推進員活動をするうえでの考え方。待つ、頼る、見守る、つながるなど	こちらから「やりましょう」と言うと、ずっとこちらがやるものだと思う。市が言ったから行く、手を引くと「途中でやめるのか」といった例が沢山あると聞いてきたので、そこを大事に、丁寧に関わっていかないと長続きしないと感じている。長く続けていくには60代以上が中心でも構わないが、次を担う人たちに入ってもらわないと続かない。そういった意味で現役世代に入ってもらって仕掛けとして、子供たちへの働きかけと考えた。家庭に帰って、親に『こういった話を聞いたよ』と伝えて貰う、そういったことで少しずつ浸透していくことが大事なのではないかと考えて、子供たちと一緒にとなった。まちづくり協議会としても、子供たちに喜んでもらいたいと色々な活動をしていたので、そういったところも合致した。まだ関係性が浅い包括や私なんかに行くよりも、既に関係性のある方から繋いでもらう方が相手方も安心するし、確実性は高いと思う。	実際に起きた悲しい出来事を基に、そういった出来事を出来るだけ減らしたい。出来れば二度と起こしたくないという思いがあったうえで、『どうやったら街の中で』『なにをやったら達成できるのか』という事があるから、徐々に広がったと思う。最終的に訓練を小学校で行い、小学生たちが客観的なコメントをしている力を見せられるというところまで発展しているという事は、一番最初の思いがちゃんとあったからだろうと思う。谷口さん(御坊市)の郵便局の話でもあったように、『こういった困ったことがあって、それを解決するにはどうしたら良いか』という事から進んでいった。地域の人が、今課題になっている事やこれから起こり得る課題を、その人達の力でどうやっていったら乗り越えていけるかという、地固めのお手伝いをする事が出来る。(吉田)
	53	力石さんの胸元の缶バッジは手作りですか？	認サポで配っている燕市のオリジナル。デザインはキャラバンメイト連絡会で作った。春からサポーター養成講座は変更点があるが、燕市は引き続きこれを配っていく。	
まとめ	54	報告者やパネリストとして参加した。見ていらっしゃる方々以上に楽しませてもらった。ご迷惑をおかけしたかもしれません。コロナのこともあり、様々な悩みをどの地域を持っていると思う。こうして話しているが、私たちも同じように悩んでいて、「いったいどうしようか」を繰り返している。このようなすいしんセッションや近隣市町村の話やすい推進員、推進員ではなくても普段から話している仲間と話をして、自分たちが認知症になった時に地域で暮らしやすくなるために、礎となれた良い。みなさんから色々なアイデアをもらいたいの、よろしく願います。ありがとうございました。(千歳吉田さん)		
	55	報告者やパネリストとして参加して、私自身も沢山学んだ。こういったつながりが一番大事なと思う。こういったつながりの中から、こちらから伝えたり、逆に伝えていただいたりできると思う。コロナであろうとなかろうと、つながりが大切である。この場でつながる事の出来た報告者やパネリストへ連絡してみるのも良い。日本全国の推進員の皆さんで協力出来たらいいと思う。ありがとうございました。おつかれさまでした。(千歳作田さん)		
	56	日本全国、今推進員が活躍している。ここに出ているだけで、日本全国ある中で4市の取り組みを皆さんにお伝え出来たと思っている。今年はできなかったが、様々な推進員の研修で取り組みを紹介しているところがある。そういったところの情報を、恥ずかしがらずに、怖がらずに、電話などで連絡して仕入れてみると良い。そのうえで、自分たちの地域にうまくいくようなものを真似したり、寄せ集めて作ってみたり、やってみると良い。釧路も、SOSネットワークや訓練に力を入れているので、内容・カリキュラムなどを知りたい方は、東京センターに問い合わせ、ぜひご連絡ください。今日はありがとうございました。みなさん、これからも一緒にやっていきましょう。(速水さん)		
	57	1回目と4回目にパネリストと報告者として参加し勉強になった。私の話の話の中にヒントがあれば幸いです。これを聞いている皆さんも、ぜひ次回はここで発表やパネリストとして参加すると視点が変わると思う。もしお声がかかったら、ぜひ。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。(力石さん)		
58	1回目と4回目にパネリストと報告者として参加し勉強になった。私の話の話の中にヒントがあれば幸いです。これを聞いている皆さんも、ぜひ次回はここで発表やパネリストとして参加すると視点が変わると思う。もしお声がかかったら、ぜひ。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。(力石さん)			
他地域の方へ寄せられた質問(ウェビナーQ&Aから)				
1	千歳市のハンドブックは、どこへ配布されましたか？教えて下さい。		千歳市の社協ホームページから「千歳市社会福祉協議会 SOSネットワークハンドブック」でダウンロードできる。 https://www.chitose-shakyo.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/764256bf3f38d49c349295919b893713.pdf	
2	すいしんネットズーム会に何名くらい参加していますか？		毎回20~30名くらいです。	

視聴した人から寄せられた情報（主なもの）

1	①認知症声掛け訓練“まきば声かけ訓練”（今年度は訓練ではなく映画で学ぶ認知症サポーター養成講座に変更） ②認知症パトウォーク（パトロール×ウォーキング）
2	訓練はしていませんが、地域では認知症サポーターを受講された方が、近所で迷子になっていた認知症の方を車で家まで送ってくれているケースが数件ある。
3	同様の訓練を昨年度までは継続していました。
4	小学生には紙芝居を使ったり、グループワークでは①講座を聞いてどう感じたか②声のかけ方についてを話し合いました。
5	検索ではありませんが…中学生を対象とした福祉体験教室を行っており、内容の一つとして認知症についての説明と声掛けの体験を盛り込んでいます。
6	声掛け訓練は今年度行いました
7	コロナで延期になってしまいましたが、商店街での認知症の方への声掛けの模擬訓練を行う企画があり参加予定でした。
8	現時点では、活動がありません。
9	私の町では高齢者見守りネットワークと名前を付け、屋内(体育館)などで行っています。住民の方や介護サービス事業所の方が主な参加者です。
10	認知症サポーターステップアップ講座や大学のゼミの中で声掛けを体験してもらっています。令和元年度、大学での声掛けでは、以前の講座を受け、協力可能と賛同を頂いてる方に記録係や認知症役にご活躍いただいています。残念ながらコロナ禍のため令和2年度は開催していません。
11	声かけ訓練は行っているものの、小学校へは未実施でした。
12	私の圏域の包括では平成30年まで同地区にある小（4年生）・中学校（1年生）を対象にサポーター養成講座を開催してきましたが、残念ながら一昨年より「学習カリキュラムの変更で時間が取れない」とお断りされるようになりました。
13	徘徊対応模擬訓練について・・・燕市は年を重ねるごとにどんどん変化している。私はこの3年間『ただ場所を変えて、同じ事の繰り返しをしている』ような感じなので、進化に繋げるヒントをウエビナー得られればと思う。
14	徘徊対応模擬訓練の燕市は年々進化しているように感じる。私はただ、3年間場所を変え同じ事を繰り返してきた感じなので、進化につながるヒントをウエビナーで得られればと思う。
15	「認知症見守りサポーター講座」という名称ではありませんが、市内の小学校6年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を行っています。
16	同じく軒並み様々な計画が中止になっています。次年度の計画に悩んでいます。
17	認知症高齢者声掛け訓練を年1回3地区で令和元年度は実施。今年度はコロナウイルス感染予防のため中止。
18	コロナウイルスの感染拡大防止のため今年度は開催なし
19	市主催で徘徊訓練を行い、参加させていただきました。 地域に向けて地域会議（地域主催の会議）に、5年前ぐらいに認知症の徘徊訓練を認知症の周知を含めて地域へ提案したことがありました。当時は開催が難しいとでの意見でしたが、昨年当初検討事項に徘徊訓練があがりました。コロナ感染の為案件がなくなりましたがコロナ感染の状況を見て動きたいと思いました。
20	中学校の認サポで、寸劇の中に声かけシーンを入れて自分たちならどうする？の意見交換をしたこと。終了後のアンケートで今日の学びから町で困っているような人がいたら声をかけることができそうという意見があった。
21	数年前まで私の地区でも声掛け訓練を市全体で行っていましたが、行政や包括の業務量は多く、現在は声かけ訓練で行っていた手順や準備作業を手引きにまとめ、自治体単位で手上げしてもらい、1~2か所で実施されています。小さい単位で行う方が効果的だと感じていますが、開催してくれる地区に限られているのが課題です。
22	小学生を巻き込んだイベント。以前小学校の体育館でアプリを使った搜索訓練を実施して非常に盛り上がった。
23	地域活動（小学生福祉講座）での認知症サポーター養成講座の実施